

多治見の初等教育

～寺子屋から学校へ～

イラストは寺子屋の教科書にあった落書きから

江戸時代中期には生活水準が向上し、庶民の子どもに初歩的教育をおこなう寺子屋や手習所が普及していきました。明治に入ると、政府は欧米を手本とした新しい教育体系を定めました。しかし、新しく校舎を建設するのにかなりの金額を要したためお寺や神社を仮校舎にし、廃業した寺子屋師匠を教師としたところが多かったようです。

江戸時代の寺子屋

江戸時代は、身分と目的に応じた教育がなされていました。幕末には多治見市域でも寺子屋が十五軒ほどあったようです。村の知識人や僧侶、神主などが指導者となり読み・書き・そろばんの初歩を教えました。

愛知・岐阜に普及した義校

明治のはじめ頃、住民の寄付金により設立・運営されていた初等教育の学校を「義校」といいます。愛知と岐阜で普及し、公立小学校の前身となりました。

「四書五経」から名づけられた義校

- ようせい 養正 『易経』より
- しんもん 審問 『中庸』より
- こうしん 苟新 『大学』より
- きょうけん 恭儉 『礼記』より

義校から公立学校へ

運営経費が住民の大きな負担となったこともあり、義校は徐々に公立の小学校へと移行していきました。土岐郡では学問への関心の深い旧岩村藩士が先生として人気がありました。

明治初期の学校 (開校時の場所) 江戸時代には寺子屋であったと考えられる

郷土のことに調べるなら 郷土資料室へ

地元に関する資料や市民の皆様から寄せられた文書や記録などを整理し保管しています。保管資料は利用者の方の調べ学習・研究などにもご利用頂けます。地域の歴史に関するご相談は、郷土資料室までお問合せ下さい。市民の皆様からの郷土資料のご寄贈や情報の提供も募集しております。

多治見市図書館郷土資料室

【場所】 多治見市豊岡町1-55 ヤマカまなびパーク4階 JR多治見駅より徒歩5分

【電話】 0572-23-3783

【開室時間】火～土曜日 10時～17時(日・月・祝日・年末年始は休室) ※図書館とは開室日・時間が異なりますのでご注意ください